



環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第20号 平成25年12月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

「青森県農林水産基盤整備推進セミナー」で「環境公共」を支える新技術を紹介

平成25年11月11日、青森市のウェディングプラザアラスカにおいて、青森県農村整備建設協会と青森県漁港建設協会の共催で「青森県農林水産基盤整備推進セミナー」が開催され、県内の建設会社や団体、行政などの関係者約200名が参加しました。

本セミナーは、先進的な施工技術や取組事例に関する講演、意見交換を通じて技術の研鑽を図ることを目的に行われたものであり、プログラムの一つとして、県農村整備課の担当者から、「環境公共」を支える新技術として実践・検証してきた、低コストの水田輪作体系を導入するための「地下かんがいシステム（フォアス）」、畑作物の品質向上・収量を増加させる「深暗渠」の概要と、これらの技術の更なる低コスト化に向けた実証・普及の取組状況などについて紹介しました。



セミナーの様子



新技術を紹介する県担当者

「攻めの農林水産業」10周年記念大会で「環境公共」をPR

平成25年11月12日、青森市の青森国際ホテルにおいて、「攻めの農林水産業」10周年記念大会が開催され、農林水産業の関係者や消費者など約300名が参加しました。大会では、県内において「攻め」の姿勢で生産や加工・販売に取り組んでいる優れた団体等の表彰や受賞事例の発表、記念講演が行われました。

会場には「環境公共」のPRブースを設置し、パネル展示や環境公共通信等の配布を通じて、県内の優良事例の取組などを紹介したほか、県産スギの間伐材を有効活用したコースターを展示し、希望者にプレゼントしました。

また、県内の建設業者3社が合同で開発した、「海のゆりかご」であるアマモ場を守りナマコなどの水産動物の棲みかとなる人工魚礁の模型を展示し、豊かな海の恵みを育む取組をPRしました。



記念大会の様子



「環境公共」PRブースでパネルなどに見入る参加者の皆さん



県産間伐材のコースター（手前）のほか、各種の木工品を展示



人工魚礁の模型



■「環境公共」事例紹介

第二南津軽地区(黒石市)～黒石花のみち運営委員会の取組～

1 地区の概要

黒石市西部に位置する第二南津軽地区は、秀峰岩木山を望み、八甲田連峰の清水に潤された美しい田園風景が広がる地域です。本地区は広域農道整備事業や農村総合整備事業により農道が整備され、地域農業の発展に寄与しています。これら農道の整備をきっかけに、平成18年3月に周辺の町内会等からなる3つの協議会を中心とする「黒石花のみち運営委員会」が設立されました。

委員会では美しい農村景観を保全し、地域の活性化と発展に寄与することを目的に活動しており、農村環境の保全を通じた「環境公共」の推進にも取り組んでいます。

2 植栽活動

委員会では、平成18年から3年間で延長1,625mの農道沿いに合計7,700株のシバザクラの植栽を行っており、シバザクラの見頃となる5月の半ばには黒石市民だけでなく、農道を利用する多くの人々の目を楽しませています。

委員会の活動は毎年5月から8月まで、月2回ほどの割合で土曜日の早朝に行われ、特に5月から6月に行われるベゴニアの植栽には、市長をはじめ毎年多数の市民が参加し、その様子が地元紙にも大きく掲載されるなど、市恒例のイベントとなっています。

今年度はマリーゴールドとラベンダーを合わせて1,200本の植栽活動が去る6月1日に行われ、委員会のメンバーをはじめ、市長や市職員など約100人が作業を行いました。

3 今後の取組

本農道は、多くの地域住民がジョギングや散歩道として利用しており、シバザクラのある風景は大変評判となっています。委員会では、市広報等を利用して地区外の住民にも植栽活動への参加を呼びかけるなど、景観保全活動のPR活動も実施しています。

今後は、植栽の対象範囲を広げ、地域ぐるみでの更なる景観保全活動を進め、美しい花のみちを維持していきたいと考えています。



今年度の植栽活動の様子



満開のシバザクラ



植栽活動後の集合写真